

7月17日、能登半島の大動脈である「能越自動車道・のと里山海道」が全区間開通した。崩落道路の側に作られた応急道路なので、急カーブや大きな段差、対面通行の場所もあり速度を出すことはできないが、被災地との往復にかかる時間がぐっと短くなった。

初めて被災地を訪れた時は、冬の寒さとそこでの景色に胸が張り裂けそうであった。今は暑さと、前に少しずつ進もうとしている現地の方から、僅かながら明るい話題も聞けるようになってきた。この報告書が掲載される頃には、震災から7ヶ月が経つことになる。被災地の景色は、季節が移り変わるものの、家屋の解体作業はあまり進んでおらず、地域によって復旧に大きな差が出始めている。湿った瓦礫から虫が湧き、倒壊した建物から粉塵が舞い、道を塞ぐ。

また、メディアなどで、木造長屋型、木造戸建てといった応急仮設住宅が紹介されているが、ほとんどが旧来のプレハブ型である。熱がこもりやすく、広さも二人で四畳半1DKといった間取りの場合もあり、布団を広げたら何も置けないのが現状である。私たちが今当たり前に過ごしている安全な環境が、被災地の方々には、まだないことを知っていて欲しい。

*

*

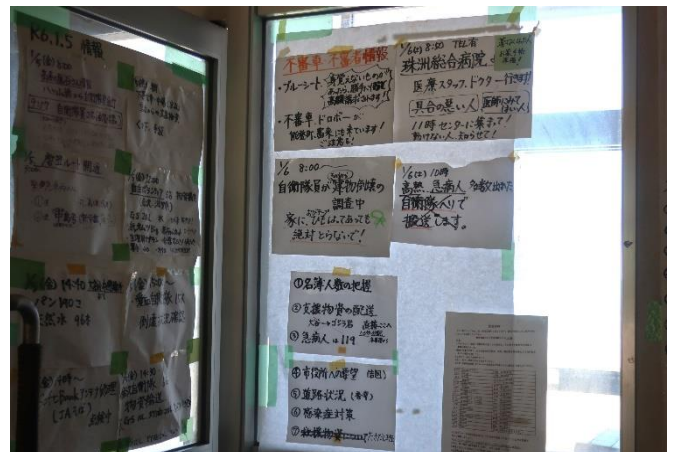
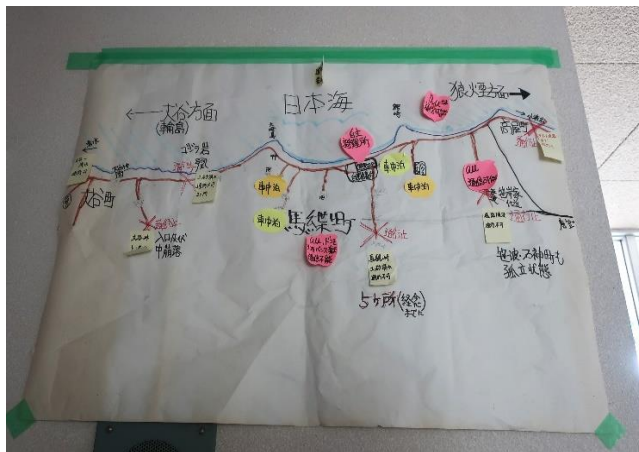
*

2024年7月11日(木)

馬縹キリコ太鼓保存会(珠洲市大谷地区馬縹町)

同保存会の事務局である豊平慶彦さんと、現在も避難所となっている珠洲市自然休養村センターで待ち合わせをする。震災から半年が経ってもこの付近はまだ水が通っておらず、町に入る道路も限られ迂回路しかない。そのため仮設住宅の建設も進んでいない。

施設内に入ると壁や窓一面に、発災から状況を一日ごとに書き記した張り紙がびっしりと貼ってある。孤立状態になった住民たちが毎日情報を共有しながら、過酷な時間を協力して過ごしていたことが伝わってくる。同保存会の笛奏者であり、防災士の国永英代さんもこの避難所にいらした。住民による共助や集団生活のルールの周知、定期的な話し合いにより、自立した避難所生活が可能であった場所として、報道でも早期から取り上げられていた。伝統の祭りなどを通じた、住民同士のつながりが強かったともいわれている。





馬縹キリコ太鼓保存会は、震災前には県内外の様々なイベントに出演しており、地元の公民館事業「子ども伝承クラブ」では、珠洲市立大谷公民館と珠洲市立大谷小中学校で太鼓指導を行っていた。3月には、市外の復興イベントにも参加している。

太鼓は、待ち合わせ場所である珠洲市自然休養村センターと、そのすぐ後ろにある建設会社倉庫、そして珠洲市立大谷公民館に保管しており、順番に太鼓を確認していく。

● 珠洲市自然休養村センター

建物が無事であり、毛布も掛けられていたため太鼓は問題がない状態であった。



● 建設会社倉庫

一部の屋根や天井が外れ、雨漏りのシミが全面に広がっている。入り口近くの一段高くなった場所に、家屋倒壊などで置き場所がなくなった住民達の家財道具も保管されていた。太鼓は、資材置き場の床に置いてあった。落下物の衝撃と雨漏りにより、胴にヒビが入り、革が破れていた。こちらは、新調の支援対象となった。



● 珠洲市立大谷公民館

能登半島で外浦とよばれる地域のほとんどは、海底隆起により津波被害はまぬがれたが、大谷地区では、道路崩落による孤立や土砂崩れも起きていた。太鼓の保管場所であった講堂は、当初避難所として使用していたが、後に遺体安置所となる。そこに置いてある太鼓は、子どもたちが練習や発表の場で使っていたもので、無事であることが確認できた。

途中、震度 2 の地震がくる。建物内では少し強く感じる。半年が経っても、余震はだいぶ減ったが揺れは続いている。





公民館の講堂



弁天夢太鼓・山王太鼓(珠洲市蛸島町)

修復された太鼓を納めるため、避難所として使われている旧蛸島保育所に伺う。弁天夢太鼓の代表者である室谷美恵子さん、山王太鼓の代表者である田喜知剛さんの他に、地元の住民の方も待っていてくださった。弁天夢太鼓は平太鼓4台の革の張替え修理、山王太鼓は長胴太鼓2台と平太鼓1台の革の張替え修理を行った。皆さん、太鼓を愛おしそうに撫で、手で音を確認して頷く。

両団体とも従来の保管場所は使えない。弁天夢太鼓は保管場所が倒壊し、山王太鼓は使用していた珠洲市蛸島公民館が、現在も復興支援のための環境省の宿泊施設となっており、いつ戻れるかはまだ分からない。従って、しばらくは旧蛸島保育所で太鼓を保管していくことになった。

太鼓の修理支援は、早ければよいというわけではない。保管場所の確保、打ち手の生活状況など様々な問題があることを忘れてはならない。



弁天夢太鼓 修理前の平太鼓(上・右)



修理後の平太鼓



山王太鼓 修理前の長胴太鼓と平太鼓(上・右)



修理後の長胴太鼓と平太鼓



帰り際、室谷さんが駆け寄ってきて「こんなに嬉しいことはない。子どもたちにも早く見せてあげたい。そして、ご支援のことをちゃんと伝えたい。震災があったとはいえ、子どもたちには、支援は当たり前前に受けられるものだと思う、皆さんの気持ちや助けがあって成り立つものだと、感謝の気持ちを抱いて欲しい」とお話しされた。

後日、山王太鼓の保護者の方から感謝の言葉とともに、素敵な写真が送られてきた。代表者の了解も得て、掲載させていただく。





珠洲八幡太鼓保存会(珠洲市正院町)

正院町は建物の解体作業や瓦礫の撤去があまり進んでいない場所の一つである。前回は車で通れた場所も、家屋倒壊が進み、通行止めとなっている場合がある。

7月中旬に災害廃棄物の海上輸送が始まると発表された。それらは被災地から新潟県糸魚川市に運ばれ、バイオマス発電の燃料やセメント原料として再利用される。少しでも早い復旧・復興を願うばかりだ。



正院町の様子

珠洲八幡太鼓保存会は、長胴太鼓1台と四角台1台が新調の支援対象となり、納品のため須受八幡宮を訪れる。以前の保管場所であった能舞台は更に崩れており、仮置き場にしていた小屋も安全とは言い切れない状態になっている。相談の上、ブルーシートが張り巡らされた本殿に保管することになった。建物の歪みに起因した床のたわみがあるものの、出入口も含め、ブルーシートと木が全面に打ち付けられており、雨漏りの心配はなさそうである。7月29日から社殿や能舞台などの解体が行われると伺う。



珠洲八幡太鼓保存会 新調前の長胴太鼓と四角台

新調後の長胴太鼓と四角台

珠洲八幡太鼓保存会の瓶子明人さんと宮司の秦恭通さん立ち会いのもと、本殿に太鼓を運び入れる。途中、古株のメンバーである小松次作さんが駆けつけ、新調された太鼓を見て、演奏を披露してくださった。小松さんのバチさばきに応えるかのように、瓶子さんもバチを握り太鼓を打つ。演奏されている姿を見ていると、一瞬被災地であることを忘れそうになる。それぐらい本当に生き生きとした表情で、体からリズムが溢れ、その土地の香りがしてくるのだ。

同保存会は、被災しながらも珠洲市立正院小学校の伝承クラブで指導を続けており、その長年の活動が認められ、7月に珠洲市少年文化賞を受賞された。また、須受八幡宮秋季祭礼(9月14日・15日)を執り行う予定で、最終日には新調された太鼓の奉納演奏を行う。



2024年7月20日(土)

河北郡内灘町(宮坂・西荒屋・大崎)

今回の能登半島地震では、地震によって、海底隆起、津波、火災、土砂崩れ、液状化が引き起こされた。地域によって、被災状況は様々であり、河北郡内灘町は液状化現象がおきた。

この内灘町は、金沢市中心部から約15km、車で20分ほどの場所である。震災当初、当財団石川県支部所属の和太鼓 摩凜と地元の石川県太鼓連盟所属の胡舞の皆様は無事は確認していた。その後も代表の方とは顔を合わせ、連絡を取り合っていたが、液状化現象が起きた現場まではなかなか訪れることができなかった。メンバーの中には、家屋倒壊のため現在も避難生活を送られている方がいる。太鼓は問題ないとの報告を受けていたが、現地へと足を運んだ。

元々、干拓地や砂地であった場所は特に被害が大きく、液状化現象によって、地盤が水平方向にずれる「側方流動」という現象がおきていた。道路標識や電柱は同じ方向に傾き、街全体が斜めに歪み、波打っている。半年以上が過ぎた現在でも、下から砂が吹き出し、道路や地面が浮き上がり、家の境界線がずれている。現在、車道は段差を埋めて応急舗装しているが、地震直後の街の様子は想像を絶するものであったはずだ。仮設トイレが一定区間に置かれていた所を見ると、未だに下水道の復旧が完了していないことが分かる。



2024年7月28日(日)

龍神太鼓保存会(珠洲市上戸町)

代表者である坂井和朗さんから、少しずつ演奏活動や子どもへの指導を再開していきたいとの要望があり、支援対象となった3台の太鼓のうち、長胴太鼓1台と新調の四角台の1台のみを早めに納品した。雨乞い太鼓として、雷鳴を表現するために、太鼓台にはスネアドラムで使われるスナッピーが取り付けられている。坂井さんは、新しく打ち直された革面を確認しながら、太鼓を一周しニコッと笑う。

同保存会は、8月10日に見附島のあたりで演奏する予定だと伺う。



龍神太鼓保存会 修理前の長胴太鼓と四角台



修理後の長胴太鼓と新調された四角台



納品後、珠洲市宝立町へと車を走らせる。住民達が戻れない地域は、完全に時が止まっている。雑草が生い茂り、人の気配がないからだろうか、トンボや大きな蜂が何匹もブンブンと飛び回っている。解体作業が行われた場所は本当にごくわずかだ。



*

*

*

2024年8月1日(木)

輪島市の様子

御陣乗太鼓保存会より、規模を縮小した神事と奉納演奏のみとなるが、町民だけで名舟大祭を行うとの話があり、現地へと向かう。地元住民だけではなく、多くの報道陣も訪れた。名舟町に入る仮設道路が5月に完成してから、当初予想していたよりも住民たちが戻り始めていると、地元の方がお話ししてくださった。

奉納舞台であった場所は、行方不明者の捜索が続き、前回よりも更に土砂に埋もれてしまっている。夏の日差しが照りつける中、海底隆起した海と、倒壊した鳥居の前で神事が執り行われ、御陣乗太鼓保存会の奉納演奏が始まった。震災後初めて、名舟町に太鼓の音が鳴り響く。

同保存会は3月から、県内各地の復興イベントで演奏し、観客に感動を与え、被災地を奮い立たせてくれた。でも、生まれ育った場所で響く太鼓の音は、やはり特別だ。村を守ってきた魂たちが憑依したかのように、お面の表情まで違って見える。勇ましい声が日本海の潮風に轟き、その演奏を見守る住民達の祈り、それら全てが音となっていた。演奏後、報道のインタビューに応えるメンバーの表情は、この日の青空のように晴れやかだった。

「おかえり」「ただいま」この声がかいつか町中に、響く渡ることを願っている。



名舟町に向かう途中、輪島市中心部の様子を見る。大規模火災があった輪島朝市通りは、瓦礫の撤去が大きく進んでいた。



しかし、住宅道路に入ると風景はほとんど変わらず、道を塞ぐまでに倒壊が進んでしまった家屋が多くある。漁港や野外広場、グラウンド、小さな空き地など、至る所にプレハブの仮設住宅が建ち並んでいる。以前訪れた時よりも住民の姿は増えたが、日常生活を取り戻すにはまだまだ時間がかかる。



現在も使用できないが、輪島高洲太鼓、輪島和太鼓虎之介が練習場として使っていた鶴巣公民館(旧輪島市立深見小学校)を通り過ぎる。土砂崩れはそのまま、グラウンドにはインスタントハウスが建ち並ぶ。



被災地域をまわりながら、安全で安心できる住環境や生業の再建は、まだまだ時間を要することを実感する。その中でも、被災地の方々は、限られた中で、出来ることを模索しながら立ち上がろうとしている。少し紹介したい。

7月5日・6日の両日にかけて、キリコ祭りの先陣を切る石川県無形民俗文化財「宇出津キリコ祭り(通称あばれ祭り)」が開催された。また7月27日には、全国有数の火祭りと言われ、高さ30メートルの巨大な火柱をあげる「能登島向田の火祭り」、8月3日には、七尾四大祭りの一つ「石崎奉燈祭」が行われた。ご紹介しきれないが、その他にも被災地各地で、規模を縮小しながらも神事や祭りが行われている。宿泊施設や駐車場の確保が難しいため、観光客への自粛を呼びかけ、地元住民やその知り合いが参加する形となっているが、祭りのために住民たちが集う。

また7月21日、太鼓の音を復興の一步にと、七尾市の和倉いでゆ太鼓保存会が被災地の太鼓団体に声をかけ、和倉温泉お祭り会館前広場で「和倉温泉元気フェスタ！ in 屋台村 vol.2」開催した。被災地域から20団体もの太鼓チームが参加し、3000人の来場者が訪れた。

(公財)日本太鼓財団 寄付金支援事業計算表(7~8月分)

支援内容	団体名	金額
太鼓支援活動の助成金	日本太鼓財団石川県支部	3,800,000
交通費代支援	輪島和太鼓虎之介	4,637
太鼓修復・新調支援	弁天夢太鼓	787,000
	山王太鼓	330,000
	珠洲八幡太鼓保存会	1,471,000
		6,392,637

(2024年8月7日)

* * *

引き続きご寄付を頂いていております。ありがとうございます！

このたび「日比谷音楽祭 2024」から寄付金を頂戴しました。同音楽祭は毎年6月に東京・日比谷野外音楽堂でクラウドファンディングによって運営、開催されているイベントです。本年はそのクラウドファンディングの中に「能登半島地震支援上乘せコース」を設けて頂き、コースに参加して下さった174名の方々から609,000円をご支援頂きました。ご参加いただいた方たち、日比谷音楽祭事務局の皆様、プロデューサーの亀田誠治様に、心よりお礼申し上げます。

寄付金の累計額は8月1日現在で、13,440,482円となりました。

お預かりした寄付金は大切に使ってまいります。

また、寄付金をより実情に合わせて使うため、当財団石川県支部に380万円を送金しました。被災地の太鼓チームの県外への派遣、復興イベントの開催等に使用されます。当該資金による事業にご希望のある方は、石川県支部事務局までお問合せください。

収支計算書(8/1 現在) (単位:円)

収入		金額	属性	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	地区	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	地区	
1/9	東北太鼓連合	300,000	地区	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	賛助	
1/27	河合 光夫	10,000	その他	シニアコンクール出場者
1/29	福井県太鼓連盟	30,000	支部	
1/29	松本 弘昭	35,000	その他	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	会員	
2/2	櫛引 秀明	50,000	その他	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	その他	浅野太鼓楽器店 17 代当主
2/6	岡山県支部	110,000	支部	
2/7	宮城県太鼓連絡協議会	150,000	支部	
2/8	北海道道東支部	30,000	支部	
2/9	茨城県支部	95,000	支部	
2/13	千葉県支部	100,000	支部	
2/13	岐阜県太鼓連盟	100,000	支部	
2/13	岐阜県太鼓連盟獅子の会	50,000	その他	国文祭ゲスト団体
2/13	全九州太鼓連合	2,805,701	地区	
2/14	神奈川県支部	50,000	支部	
2/16	佐々城 清	1,000,000	本部	常務理事
2/16	高野 右吉	10,000	その他	副会長
2/16	宮城県太鼓連絡協議会	20,000	支部	
2/16	滋賀県支部	50,000	支部	
2/18	兵庫県支部	200,000	支部	
2/26	日本太鼓財団事務局	143,000	本部	
2/29	静岡県支部	100,000	支部	
3/1	奈良県支部	162,000	支部	
3/4	台湾太鼓協会	500,000	その他	
3/7	北海道道北支部	132,628	支部	
3/11	宮本卯之助商店	1,000,000	賛助	
3/14	栃木県支部	106,984	支部	
3/15	群馬県支部	98,000	支部	
3/18	和歌山県支部	130,000	支部	
3/18	北海道道央支部	25,000	支部	
3/19	長野県支部	540,537	支部	
3/21	西岡 知則	30,000	その他	シニアコンクール出場者
3/21	愛知県支部	257,632	支部	
3/26	NPO 法人てほへ	150,000	その他	志多らグループ会社
3/27	(有)志多ら	350,000	その他	
3/27	ブラジル太鼓協会	440,000	その他	
3/28	西川恵美子	50,000	その他	技術委員
3/28	北海道道南支部	150,000	支部	
3/29	NPO 東京都太鼓連合	100,000	その他	

3/29	日本太鼓財団東京都支部	500,000	支部	
3/29	日本太鼓財団三重県支部	10,000	支部	
3/29	日本太鼓財団島根県支部	100,000	支部	
4/19	鶴岡太鼓フェスティバル	50,000	その他	
4/25	岐阜県太鼓連盟	28,000	支部	
4/30	逢鷲太鼓連 久野壯	50,000	その他	
4/30	逢鷲太鼓連	92,000	その他	
5/13	広尾陣屋太鼓保存会	10,000	その他	
6/27	西岡 知則	30,000	その他	シニアコンクール出場者
7/16	日比谷音楽祭 2024	609,000	その他	

計 13,440,482

支出		金額		備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741		
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080		
1/27	志賀町/輪島	18,415		
2/8	名舟町	54,780		
2/11	輪島	28,534		
1-2月	各チーム交通費	67,714		
4/1	パチ	20,185		
4/3	横断幕	38,500		
3月	各チーム交通費	105,152		
4月	各チーム交通費	14,973		
5月	各チーム交通費	4,637		
6/28	太鼓修繕	344,000		須須守護神太鼓保存会
7/11	太鼓支援活動の助成金	3,800,000		日本太鼓財団石川県支部
8/1	太鼓修繕	2,588,000		山王太鼓、弁天夢太鼓、珠洲八幡太鼓

計 7,336,711

収支差額		6,103,771
------	--	-----------